

第三者審査

報告書の発行実績

98年度版リコーグループ環境報告書		
表 記	日本語版	英語版
発行日	1999.1	1999.1
部 数	26,200	500
ページ	30p	

リコーグループ環境報告書1999		
表 記	日本語版	英語版
発行日	1999.9	1999.9
部 数	51,300	8,375
ページ	32p	

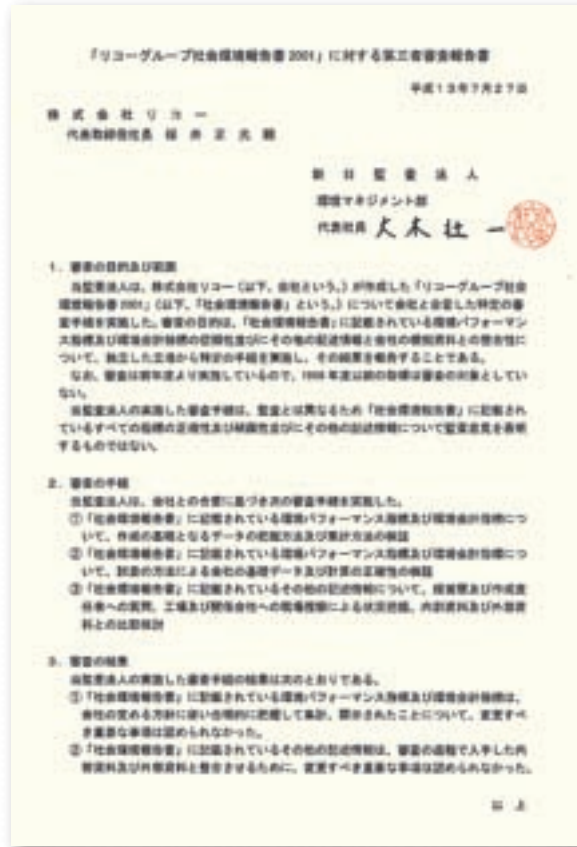
リコーグループ環境報告書2000		
表 記	日本語版	英語版
発行日	2000.9	2000.12
部 数	40,700(2001年6月15日現在)	6,800
ページ	60p	

2001年版は2001年9月に発行しました。
2002年版の報告書は、2002年夏に発行の
予定です。

編集後記

2001年版の報告書は、GRIガイドラインを参考に作成し、タイトルも「社会環境報告書」と改め、社会性・経済性に関する記述も盛り込みました。環境に関する情報についても、環境会計やLCA研究の進展、グローバルな事例を積極的に盛り込むなど、記載内容が大幅に増大しました。記載する情報については十分に吟味したつもりですが、2001年版は、昨年の60ページを上回る74ページになりました。アンケートの結果からも「リコーグループの報告書を参考にしている」という意見が16回答あった一方で、「量が多く専門的すぎる」という意見が5回答ありました。今後は、情報量や内容のわかりやすさについても改善を図ってまいります。

リコーグループの報告書は、情報の正確性・網羅性を高めるため、ほぼすべての事例に関して、実際に取材を行って掲載しています。2001年版に関しては、新たに海外事業所(フランス、イギリス、アメリカ、メキシコ)や、森林保全プログラムを実施している現場の取材などを行いました。今後も、活動の報告だけでなく、より多くの皆様の環境保全活動に役立つ情報を収集するために、きめ細かな取材のもとに情報開示を行ってまいります。



リコーグループは、社会環境報告書に記載する「環境パフォーマンスデータ」および「環境会計データ」の信頼性を高めるため、昨年に引き続き、朝日監査法人による第三者審査を受審しました。

第三者報告書とは別に、審査を通じての所感として、下記のようなコメントをいただきました。



朝日監査法人 魚住氏・川原氏・入江氏によるリコー福井事業所の視察風景

リコーグループは、環境保全を経営の重要な柱のひとつに据え、環境経営に対するさまざまな取り組みを続けられています。

GRIガイドラインへの配慮

今年度の報告書では、GRIガイドラインを参考に、社会・経済項目を追加し、全体を構成されています。

全リコーグループでの環境行動計画推進

海外を含めた全リコーグループを包括した環境行動計画を策定し、推進されています。

環境マネジメントの充実

2001年度までに国内の全事業所、および海外を含む全関連会社におけるISO14001の取得を目指して努力されています。

環境会計、環境情報システムの構築

国内の全事業所、および海外を含む全関連会社における環境会計の構築、環境情報システムの構築を進められています。

環境社会貢献の展開

環境ボランティア活動、環境に関する講演などを行い、循環型社会の実現に貢献する努力をされています。

今後、環境経営の継続的向上に向けて、取り組みを進められることを期待しています。